

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 眞弓 尚也

論 文 題 目

看護における哲学的プラグマティズムの意義：立場の異なるプラグマティストの比較から

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	浅野 みどり
	名古屋大学教授	本田 育美
	名古屋大学教授	玉腰 浩司

論文審査の結果の要旨

プラグマティズムは、19世紀末に創始された比較的新しい哲学の伝統であり、現在もさまざまな分野で注目されている。しかしながら、看護において十分にその考え方が理解され、活用されているとは言い難い現状がある。したがって、本研究では、四人の著名なプラグマティストの共通点と多様性の概観し、その上でプラグマティズムの思想が看護の問題とどう関係し、活用しうるのかを示すことを目的とした。

本研究では、まず四人の代表的プラグマティスト（チャールズ・S・パース、ウィリアム・ジェームズ、リチャード・ローティ、スーザン・ハーク）を取り上げ、彼らの相違点を知識の真理性や客観性の観点から論じ、ついで彼らの共通点として哲学的自然主義を指摘した。その上でプラグマティズムが、看護においてこれまでどのように論じられてきたのかを吟味すると共に、現在看護で論じられている哲学的課題にどう関わりうるのかを考察した。

本研究における主張は要約すると以下のとおりである。




1. 看護で論じられる哲学的課題（看護における知識形成の方法、クリティカル・リアリズム、ミックスメソッド研究、实在論）についてプラグマティズムの観点から論じ、看護の哲学がプラグマティズムから意義ある示唆を得られる可能性を示した。
2. これまで看護においては、知識の文脈性や主観性を重視し、客観的な科学知識を疑問視する認識論的相対主義を擁護する思想としてプラグマティズムがしばしば引用されている。その一方で、知識の真理性や客観性に正当性を与えるようなプラグマティストへの目配りが少ないことを示した。
3. したがって、プラグマティズムに関心を持つ看護研究者は、認識論的相対主義の傾向をもつローティやジェームズだけではなく、实在論を擁護するパースとハークにも注目すべきであることを提言した。
4. 四人のプラグマティストに共通するのは、経験に基づかない形而上学を否定し、我々の哲学や理論を我々の現在の信念や実践から生じさせることを求める自然主義である。この経験主義的自然主義は、存在論や認識論ではなく、方法論を重視するため、看護学における理論と看護実践との乖離という問題の解決に資する可能性について示した。

本研究は、今後の看護界におけるプラグマティズムのより適切な理解を促進するものであり、また看護における今後の知識形成のあり方や、理論と実践との関連について重要な示唆を与えるものであると考えられた。今後、個別的な看護の哲学問題について、より考察を深められることを期待する。




これらの研究成果は、看護の国際専門誌である *Nursing Philosophy* (JCR2021 IF=1.800) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	眞弓 尚也
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学教授	名古屋大学教授
	浅野 みどり		本田 育美	 玉腰 浩司 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主論文で論じる哲学としてプラグマティズムを選択した理由 2. 今回取り上げた四人のプラグマティストを選択した理由 3. 主論文の執筆の動機となった、現状の看護学の問題点 4. 主論文で触れられていないプラグマティストとその主張 5. 本論文を踏まえた今後の研究の展望 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学 力 審 査 の 結 果 の 要 旨 お よ び 担 当 者

報 告 番 号	※ 乙 第	号	氏 名	眞弓 尚也
学力審査担当者	主査 名古屋大学教授 浅野 みどり 	名古屋大学教授 本田 育美 	名古屋大学教授 玉腰 浩司 	
(学力審査の結果の要旨)				
以下の問題について口頭試問を実施した。				
1. 哲学的基盤の看護学への影響について				
2. 看護基礎教育における看護哲学の位置づけについて				
以上の試験の結果、学位審査委員合議の上、看護学分野の学術について、本大学院博士課程（看護学）修了者と同等以上の学力と見識を有すると判断した。				